



みさき・じゅんこ

1970年生まれ。東京都出身。俳優、音楽家としてステージやテレビドラマ、コマーシャル出演などで活躍。2002年より自作曲のピアノを弾き、歌い、語って演じる「一人語り」〜いのちと心をつなぐコンサート〜を続けている。また、防災をテーマにした「防災一人語り」も注目を集める。病院や老人ホーム、東日本大震災の被災地での朗読やコンサートなどにも力を入れる。公式サイトは

<http://www.momojazz.net/Junko%20Misaki/JunkoMisaki.html> (「三咲順子 一人語り」で検索)

三咲 順子さん

俳優・音楽家

ステージやテレビなどへの出演のほか、東日本大震災の被災地でもコンサート活動を行なっている、俳優で音楽家の三咲順子さん。自らライブワークと語る「一人語り」も続けている三咲さんに、最近の活動などについてお聞きしました。

「一人語り」が
「防災」に広がった

——音楽から演劇まで、多岐にわたってご活躍ですが、2005年からは全国各地で防火や防災をテーマにし

た「防災一人語り」を続けられています。

「防災一人語り」は、さまざまな災害や消防救急の活動などの実話に基づいて、私が曲を付け、ピアノで歌い、語

るといふものです。

これは、私が02年から上演している、ライブワークとも言うべき「一人語り」がきっかけでした。生命の大切さや思いやり、家族、人との絆や人情、差別、環境などをテ

この人に聴きたい

文◎荒川和巳 写真◎四宮義博

マにしているのですが、この公演をご覧いただいた消防署の署長さんから、防災をテーマにした一人語りを依頼されたのです。

それまでの「一人語り」はファンタジックなフィクションが多かったのですが、署長さんの「リックエスト」は実際にあった火災の悲しいお話でした。小さな男の子が火事で亡くなった家の消火活動をされていた消防隊長さんが、手記を書かれていたのです。

最初は私にできるかどうか迷いましたが、せっかくだいだいたお話なのでお受けすることにしました。その後は、他の防災に関するお話も語らせていただくようになりました。少しでも皆さんの防火防災のお役に立つことができればと思っています。

被災地に寄り添えれば

——東日本大震災の被災地でも「一人語り」やボランティアコンサートをされています。

東日本大震災はとにかく

ショックで、今までにない無力感にさいなまれました。ボランティアコンサートは、以前から老人ホームや病院、ホスピスなどで取り組んできたのですが、被災地で活動したくても当初は駆け付けられることもできない状態でしたから……。発災から10日ぐらいいして、気持ちだけでも寄り添えたらと、被災された皆さんへの応援の気持ちを込めて歌曲「明日を信じて」をつくりました。

実際に被災地でコンサートができたのは、その年の7月に入ってからです。それ以前に福島県の沿岸部から宮城南三陸町、岩手の陸前高田市へと北上して、津波被害の



三咲さんの「一人語り」ライブ。(三咲順子さん提供)

生命の大切さや思いやりを表現し続けたい。

大きかったところを中心に伺いました。当時はまだがれきの山ばかりで、津波の爪痕があちこちに残っていたのを覚えています。6年たつてようやく仮設住宅を出られる方も増えましたが、発災前の町を取り戻すにはまだまだ長い年月がかかり、一日も早

い復興をお祈りしています。

活発だった子ども時代

——音楽大学で音楽教育の勉強をされたそうですね。

中学・高校音楽教員の資格を取得しています。クラシック

ク音楽が好きで教員志望だったため、音大への進学を目指していましたが、国立音大の付属高校時代にアルバイトで映画やテレビドラマのエキストラをして、撮影現場の楽しさに目覚めました。この時の体験が今の仕事につながっていると思います。

でも、子どものころはスポーツが大好きで、暗くなるまで外で遊んで、寝る前には本を読んでもという生活でした。実家には本がたくさんあり、小学校の図書室の本も全て読破しました。

ちよつと変わった子どもで、松下幸之助さんの著書などを読んで「世界平和」について考えたりしていましたね。

今は、『身近な人を大切にすること』が平和につながるのかな』と考えているのですが、当時は、どうすればいいのか真剣に悩んでいたのです。

——ピアノだけではなく、いろいろな楽器を演奏されています。テナーサックスは、ジャズとコミックバンドの「ハナ肇とクレイジーキャッツ」の安田伸さんに師事されたそうですね。

たり、テナーサックスをご指導いただきました。奥さまの美容研究家・竹腰美代子さんにもお世話になり、ご夫妻には多くのことを教えていただきました。

サックスが吹けるので、落語家さんたちのデイキシーランドジャズバンド」にゆるいおいらんず」の代演の機会などもいただいているんです。

——「ゆるいおいらんず」は三遊亭小遊三師匠が発起人のお一人ですが、師匠は「らくご卓球クラブ」のヘッドコーチでもありますね。

1992年に「東京きもの女王」(東京きもの振興会主催)に選んでいただいたのですが、このときの審査員に安田さんがいらしたのです。その後もご縁があつて、コンサートで私がピアノ伴奏し

らくご卓球クラブは落語家さんだけではなく、俳優、音楽、マスコミなど、さまざまな分野の方が参加されていて楽しいです。